

科目名	必修／選択	単位数	学年	学科
美術 I	必修選択	2	1	普通科

科目の概要	<p>中学校までの既習事項に基づき、それらを発展させて、主題を生成し、表現形式や目的や機能などの特性に応じた構想を練り、創造的に表す表現活動を行う。</p> <p>表現活動（制作）はもとより、生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方感じ方を深める鑑賞活動も行う。</p>			
教材名	教科書	高校美術（日文）		
	副教材			
担当者	水 本 夕 佳			
学習到達目標	<p>美術の創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を身につける。</p> <p>知識及び技能に関する目標 色や形などの働きや、全体のイメージや作風、様式などでとらえることなど、造形的な視点について理解を深め、意図に応じて表現方法を工夫し、創造的に表すことができる。</p> <p>思考力判断力表現力に関する目標 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方感じ方を深めたりすることができる。</p> <p>学びに向かう力に関する目標 主体的に美術の創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を持ち、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を身につける。</p>			
学習方法	表現（絵画、デザイン、映像メディア表現）と鑑賞の活動を行う。基礎基本の学習に基づき、発展・探究的に制作し、鑑賞するなど、表現と鑑賞を関連付けて行う。			
評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ルーブリック		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	作品 ワークシート	作品 ワークシート	取り組みの姿勢
	A	○対象や事象をとらえる造形的な視点についてより深く理解することができる。 ○意図に応じて表現方法を工夫し、より創造的に表すことができる。	○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働などについて深く考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方をより深めることができる。	○より主体的に美術の幅広い創造活動に取り組むことができる。 ○美術を愛好する心情を強く持ち、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を持つことができる。
	B	○対象や事象をとらえる造形的な視点について理解することができる。 ○意図に応じて表現方法を工夫し、創造的に表すことができる。	○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働などについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることができる。	○主体的に美術の幅広い創造活動に取り組むことができる。 ○美術を愛好する心情を持ち、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を持つことができる。
C	上記が不十分な場合	上記が不十分な場合	上記が不十分な場合	

年間学習計画

科目名 [美術 1]

月	領域	章・単元	学習内容・目標等	時数	評価方法
4	鑑	オリエンテーション 美術とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校までの鑑賞活動のふり返りと発展を展望する ・必修芸術科目の最終の履修年度であることを確認する 	1	観察
5	デ	文字の基本	<ul style="list-style-type: none"> ・レタリングから発展させ、ロゴタイプとして作る ・美しく仕上がるよう、丁寧に取り組む 	3	作品
	デ	色彩	<ul style="list-style-type: none"> ・色の分類や原理について確認し、対比の効果を確認する ・相応しい色を選んだり、混色して作ったりする ・不透明水彩の特性を活かして美しく仕上げる 	4	ワークシート
6 ・ 7	デ	素描 1	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な立体や空間を作図する ・図法を選んで表現の工夫を試みる 	1 1	図案
	デ	平面構成	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な立体や空間を構想する ・色彩の効果を活用して配色計画する ・考案したものを、不透明水彩で着彩表現する 	1 8	
8	鑑	合評会	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の作品を鑑賞し、感想を述べ合う 	2	感想
	絵	素描 2	<ul style="list-style-type: none"> ・構造や空間の位置関係を捉えて描く ・構図を工夫して描く ・明暗を使って立体感を描く 	7	作品
9 ・ 10	絵	油彩による静物画	<ul style="list-style-type: none"> ・油彩の特性を知る ・下地作りしながら構造を描き、修正を重ねる ・混色を工夫し、色作りする ・油彩の特性を活かし、重ねの工夫をする ・全体の描き込みの密度を調整して仕上げる 	10	作品
	鑑	合評会	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の作品を鑑賞し、感想を述べ合う 	1	感想
	映	動くイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の経過で変化するイメージを思い描く ・始めと終わりを想定し、その過程を構想する 	2	ワークシート
			<ul style="list-style-type: none"> ・視点や速度の変化も工夫し、絵コンテを描く 	2	
11			<ul style="list-style-type: none"> ・動くイメージを表す作品を制作する 	5	作品
	鑑	デザインとは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広くデザインについて鑑賞する 	1	観察
	デ	サインのデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・ロゴタイプを考案する 	2	図案
12	鑑	シルクスクリーン	<ul style="list-style-type: none"> ・版種の特性を理解する ・絵画作品としてのほか、プロダクトとの関わりも鑑賞する 	1	観察
	絵 デ		<ul style="list-style-type: none"> ・デザインしたサインを製版する ・シルクスクリーンの特性を活かして刷る 	2 4	作品
1	絵	素描 3	<ul style="list-style-type: none"> ・構図を工夫して描く ・器物の構造や空間の位置関係を捉えて描く ・丁寧に観察し、質感を表現する 	3	作品
2 ・ 3	絵	水彩による精密写生	<ul style="list-style-type: none"> ・水彩の特性を知る ・水彩の特性を活かし、重ねて発色させる ・細密な描き込みで仕上げる 	5	作品
	鑑	合評会	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の作品を鑑賞し、感想を述べ合う 	1	感想
	鑑	1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・美術とはなにか、深く鑑賞し、1年間の学習を振り返る 	2	感想